

熟成ニンニク抽出液の成分に 健康長寿の答えがあった

70年にわたるニンニク研究のバイオニアである湧永製薬株式会社は、一般社団法人プロダクティブ・エイジング研究機構(IRPA)との共同研究により、「熟成ニンニク抽出液」に含まれる特定成分が抗老化作用を持つことを新たに発見し、そのメカニズムを解明しました。この研究成果を、国際学術誌『セル・メタボリズム』に論文掲載したことを受け、5月8日、湧永製薬の湧永寛仁社長、IRPAの今井眞一郎代表理事らによる記者会見が東京都内で行われました。

世界的な科学雑誌に認められた 食物由来のアミノ酸 S1PC®

熟成ニンニク抽出液は生ニンニクを約2年間熟成させた湧永製薬の独自素材。ニンニク特有の刺激性が軽減され、さらに生ニンニクにはほとんど存在しない有効成分を含みます。これまでも、数多くの基礎研究や臨床研究により、熟成ニンニク抽出液には免疫系の健全化や高血圧の改善、動脈硬化の進行抑制といった循環器系への作用、さらには菌周病などの炎症を伴う疾患の進行の遅延など、私たちの

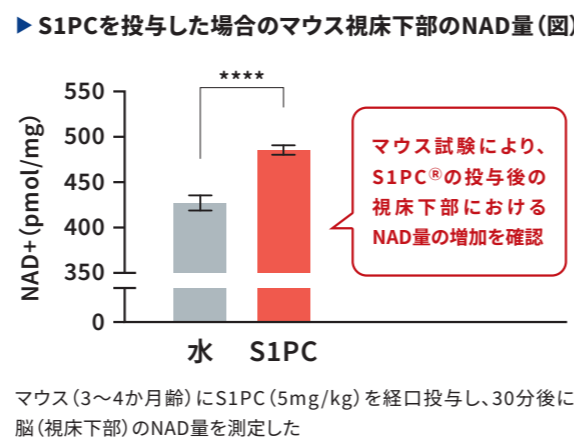
健康維持に大切な働きがあることが明らかにされました。その熟成ニンニク抽出液に含まれる「S1PC」という特有の成分が、私たちの健康に寄与する可能性は以前から示唆されていました。そのメカニズムは解明されていませんでしたが、今回、IRPAとの共同研究により、世界で初めてその一端が明らかになりました。健康寿命の延伸や老化に起因する病気の予防といった観点で、



湧永寛仁・湧永製薬社長(左)と今井眞一郎・IRPA代表理事(右)

研究のポイント

- 熟成ニンニク抽出液由来成分のS1PC®に抗老化作用を発見
- 世界で初めて実証されたNMNとS1PC®の協調的な作用
- 健康的な小太りとS1PC®が健康長寿を実現する可能性



抗老化研究の第一人者が驚いた S1PC®の効果

約10年前、NADを補う抗老化成分として「NMN」が世界的なブームとなりました。今回、S1PCとNMNを組み合わせたことで、抗老化酵素の分泌がさらに増えることも明らかになりました。NMNの抗老化作用を世界に

抗老化研究が注目されています。老化の一因は、生命体に不可欠な細胞エネルギー源「NAD」の減少です。NADの維持こそが老化をコントロールする有力な鍵の一つとされています。今回の研究では、口から摂取したS1PCが脂肪組織を介して抗老化酵素(eNAMPT)の血中

分泌を促すこと、抗老化酵素が脳の視床下部に到達してNADを増大させること、NADが交感神経系を通じて加齢による筋力低下を抑制することを、マウス実験を通じて確認しました(左図)。予備的なヒト試験でも血中の抗老化酵素の分泌が促されることを確認。S1PCの抗老化作用が明らかになりました。さらに、これまで「悪者」扱いされてきた脂肪組織が、脳をはじめとする臓器にシグナルを送る重要な役割を担うことを示した点でも、画期的な研究成果といえます。



WAKUNAGA 老化はコントロールできる時代へ

70年の知見と 抗老化研究の出会い

記者会見の冒頭、湧永寛仁社長が登壇。今回の研究成果を「人類が古来追求めてきた老化という課題への解答であり、明るい未来を届けるもの」と語りました。湧永製薬は創業以来、「世界の健康に奉仕したい」という志のもと、熟成ニンニク抽出液の研究を続けてきました。

積み重ねた知見が導いたのは、熟成ニンニク抽出液は疾患の「治療薬」ではなく、健康の土台を支える「基礎薬」という仮説でした。なかでも注目したのは、熟成によって生み出されるS1PCという天然由来成分。2019年に「S1PCが抗老化経路に関与している可能性がある」との社内報告を受けた湧永社長は、仮説を実証できるのではないかと期待し、世界的な研究機関との共同研究を模索する中で、抗老化成分NMNの研究で有名な今井眞一郎氏と出会います。



湧永寛仁・湧永製薬社長

老化・寿命研究の最先端で活躍している今井氏は当時、脂肪組織から分泌される酵素の抗老化作用を解明し、NMNと組み合わせる構想を温めていました。それだけに、湧永社長との出会いは「信じられないほどグッドタイミングだった」と振り返ります。また今井氏は、「S1PCは、NMNとの併用によって作用は

さらに高まり、これまでにない抗老化の方法論が実現する」と、今後の期待を語りました。



今井眞一郎・IRPA代表理事

小太りとS1PC 健康長寿の秘訣

湧永製薬は、抗老化酵素を増やすには男性はBMI25.26、女性はBMI23.24の脂肪量をもつ「小太り」程度の健康的な脂肪量が鍵となること、S1PCが生ニンニクにはほぼ含まれず熟成ニンニク抽出液特有で、他のどの食材にも含有報告がない希少成分であることを強調しました。

▶ 素材によるS1PC含量の違い

素材	S1PC®含量
生ニンニク	ほとんど検出されず
黒ニンニク等	およそ0.0~0.5mg/g
熟成ニンニク抽出液™	★★★★ およそ2.0~4.0mg/g

※湧永製薬株式会社の社内調査データ
※乾燥重量への換算値であり、原料ロットにより変動する場合があります
※表中の数値は、当該素材での成分含有量を保証するものではありません

湧永社長は、「老化に起因する病気は世の中の7~8割といわれている。S1PCは熟成ニンニク抽出液に1万種類以上ある成分の一つにすぎない。熟成ニンニク抽出液の中には、まだ他にも有効な成分はあるだろう。今後も研究を深め、人々の健康に貢献したい」と展望を語りました。

※「S1PC」は株式会社ワクナガホールディングスの登録商標です Suzuki, J., Yoshioka, K. et al. Cell Metab. 2026 Jun 2;38(6):1218-1228.e10. doi: 10.1016/j.cmet.2026.04.006. Epub 2026 May 7.



湧永製薬株式会社

1955年創業。「人々の健康に奉仕することを創業の精神とし、自主技術の開発による優れた製品を通じ、広く社会に貢献する」との理念を掲げ医薬品・健康補助食品の研究開発に取り組む。約70年のニンニク研究は世界トップレベル。共同研究を含めた学術論文や学会発表は1000件を超える。



一般社団法人プロダクティブ・エイジング研究機構 (IRPA)

2019年設立。最先端の老化・寿命研究を通じて、日本が「健康長寿国家」として持続的に発展する社会の実現を目指す。「プロダクティブ・エイジング」とは、高齢者が心身の健康を維持し、個人の生活および社会への貢献の双方において、生産的で充実した人生を送ることを目指す概念。

インタビュー動画はこちら

